

耐えられぬ試練はないか

我々やまなしライフサポートにとっては言葉では表しきれない悲しみであり、全く大きな損失ではありますが、敬愛するスタッフの一人、加藤誠一さんが去る4月28日に急性心不全のため天に召されたことを皆様にご報告しなければなりません。生前、多くの方々から加藤さんによせられたご温情に感謝すると同時に、加藤さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

加藤さんは2015年4月ごろから、最初はボランティアとして私を助けてくれていました。やがて、彼のパソコンに関する能力が並外れたものであることに気付き、現在ライフサポートが使用しているソフトプログラムのほとんど全ての作成を依頼しました。私のようなパソコンに関する知識がない者に対しても、いやな顔一つ見せず、いつも優しく指導して下さいました。加藤さんの親切心と忍耐強さに甘えて、個人的にも何度か家に来ていただき窮地を救って頂きました。

ここ数年は、増加するライフ荘利用者に対する相談支援の上でも、加藤さんの愛情深く親身な対応が窮地にある当事者たちにとって大きな救済となっております。就労先が決まり寮に移る方、生活保護が決定し新しくアパートに引っ越す方々には、ライフサポートに寄付され備蓄されてきた電気製品、寝具、食器等の中から当事者に必要なものを一緒に選んで運搬作業をしてくださいました。また、利用者たちへの継続したアフターケアとして、今のライフサポートの主要な活動となっている訪問相談支援を実施する上で、加藤さんを失ったことは大きな痛手であり耐えがたいほどの試練であります。

今回の特集として、急増するライフ荘利用者(一時生活支援事業)を取り上げました。生活困窮者や路上生活者が増加する原因は、経済不況や今回のコロナウイルスのような

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

大きな災害によって引き起こされる社会崩壊にあると考えられております。「災害王国日本」と言われるほど、我々が生活している日本という国は豊かな自然に恵まれていると同時に、歴史的にも大きな自然災害に見舞われてきた記録が残されております。とりわけ、未曾有の死者と行方不明者をもたらした、世界の災害史上最も悲惨なものと言われている「東日本大震災」は、誰もが決して忘れてはならない真実です。岩手、宮城、福島3県で亡くなられた方15,832名、行方不明の方2,525名。さらに悲しいことには、およそ10年が過ぎようとしている2020年2月10日の時点で、まだ避難生活を強いられている方々が49,022名もいらっしゃるということです。

こんな試練、こんな無残な現実があつていいのか！ 立派な家並み、大小の車、船、逃げ惑う人々を飲み込みながら突き進む大津波、河川を逆流しながら田畑やビニールハウスを無残に破壊する巨大な水の塊、海岸に近い家々が燃えながら押し流される映像。誰もの想像をはるかに超えた残酷な現実、2011年3月11日の記憶は決して色あせてはいない、一時も忘れてはならない真実です。

私の記憶はテレビを通して伝えられたものでありますが、最も強くその悲しみと悲劇の大きさを訴えかけたのは、海に向かってトランペットを吹く一人の女子高生の後ろ姿でした。また、当時の私の仕事で、炊き出しに参加していた路上生活者から得た情報を頼りに、甲府市、笛吹市、甲斐市の橋の下で暮らしている方々に炊き出しのお弁当を配布することであったので、津波によって無残にも次々に押し流されていく橋の場面にくぎ付けになりました。そこで暮らしていたかもしれない方々の命と、3月11日の悲劇を私は忘れません。

2020年度の主な活動実績

2019年4月～2019年9月 人数は延べ数

炊出し(弁当配布含む)	1,503名(49回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	471泊(61名)
健康相談	694名(121回)	生活保護申請	19名(受給実績18名)
路上生活者面談	294名(278回)	就労相談、就労サポート	306名(就労実績20名)
生活保護・年金受給者面談	295名(193回)	見守りパトロール	165名(66回)

特集 ライフ荘

当法人が路上生活者や生活困窮者の支援を開始して5年目の2013年5月、無料緊急一時宿泊所「ライフ荘」が誕生しました。

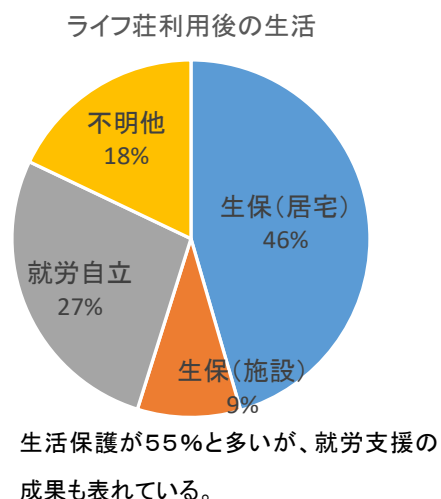
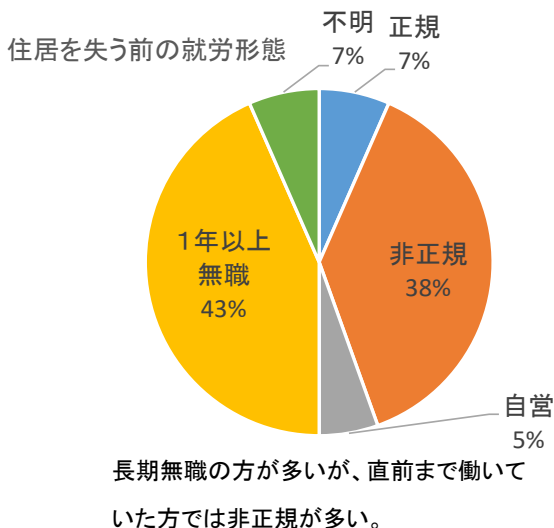
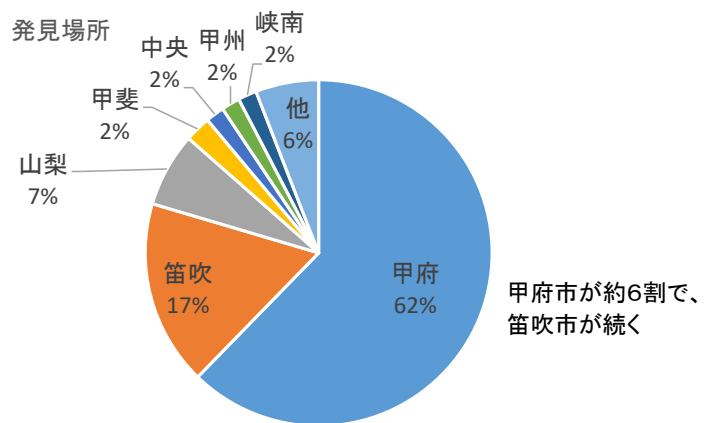
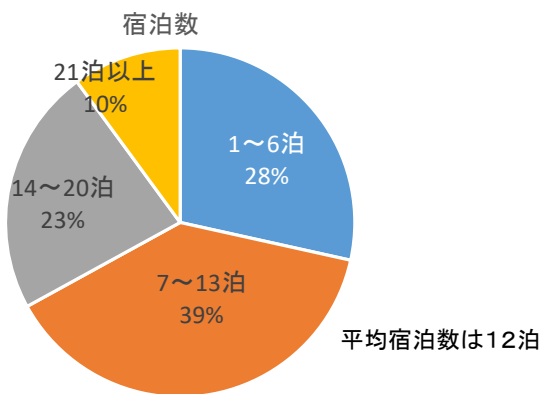
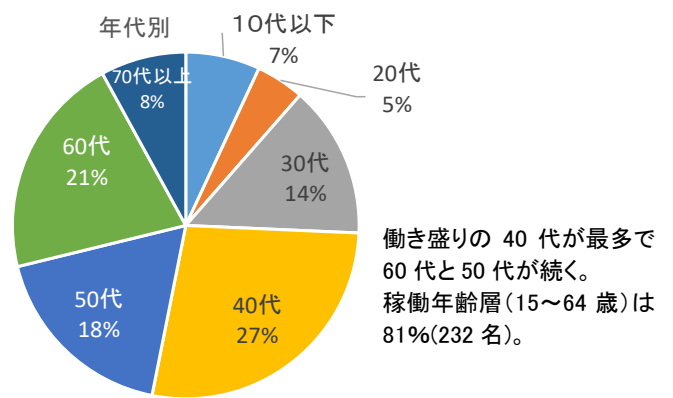
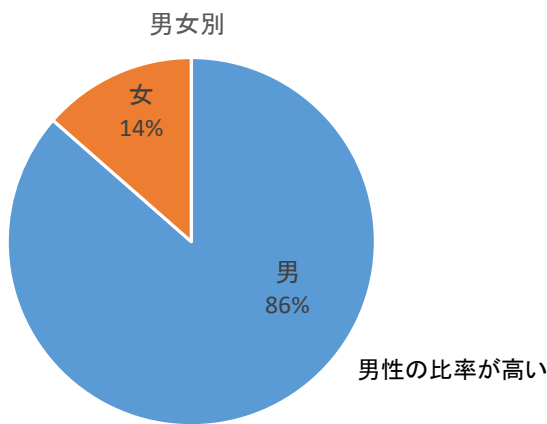
リーマンショック後の不景気による路上生活者が山梨県内でも20名を超え、緊急の対応が求められていた時期でした。ホームレス自立支援法に基づく山梨県からの補助金を受け、社会福祉法人ぶどうの里と契約し、笛吹市内に3室をオープンさせました。

初年度の利用者は58名(461泊)でした。次年度は570泊と増加しましたが、2015年度より県からの補助金が打ち切りとなり部屋数が1室のみとなったため、26名(166泊)と減少しました。

その後、生活困窮者自立支援法に基づく一時生活支援事業として、自治体(甲府市、笛吹市、山梨市、中央市、都留市)からの委託により3室体制に戻り現在に至っています。

これまでの利用者は288名(3,249泊)となっています。

【これまでのライフ荘利用者288名(3,249泊)の実態】 (集計期間 2013年5月～2020年3月)



ライフ荘での生活

やまなしライフサポートが公園や河川のパトロールを通じて発見したり、炊き出し会場に来られた路上生活者、住まいを失って市役所の福祉部門に相談に行った方などが利用しています。利用期間は原則2週間以内で、その間に相談員による生活保護申請、アパート探し、寮付の就職先探し等の自立に向けた支援を行います。

また専任看護師による健康チェックも行い、体調の悪い方には医療機関受診の同行も行っています。

やまなしライフサポートではライフ荘での生活が、自立に向けた大切な助走期間と位置づけ、快適な衣・食・住を送っていただけるよう努めています。

就労支援員による就労相談 →



住

賃貸ワンルームマンションを3室借りています。各部屋にはバス、トイレ、流し台、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、テレビ、エアコン、寝具等が用意されています。建物は鉄筋コンクリート造りなので遮音性が高く、プライバシーも確保されています。



食

朝食と夕食は、社会福祉法人ぶどうの里の職員に準備していただいています。栄養士によるバランスのとれたメニューを提供しています。昼食はレトルト食品をお渡ししています。



夕食の例



朝食の例

衣

利用者の中には、着の身着のままの方も多くおられます。下着、シャツ、ズボン等をサイズ別に用意し提供しています。就職面接用にスーツやネクタイの等貸し出しも行って



ライフ荘利用者の事例

K さん(80代 男性)

甲府駅付近の公園で路上生活をしていたところ、ライフサポートの夜間パトロール中に発見されました。私は少ないながら年金をもらっていたので生活保護は受けられないと思っていました。担当の方から生活保護について細かい説明を受け、基準の範囲内で敷金・礼金・家賃の支給が受けられ医療費もかからないことがわかりました。

その後2週間、緊急宿泊施設(ライフ荘)を利用させてもらい、その間に生活保護申請やアパートを捜してもらいました。ライフ荘には冷蔵庫や洗濯機など生活に必要な備品は全てあり快適な生活をさせていただきました。食事も3食提供してもらい朝食／夕食はいつも暖かい手作りで美味しくいただいた事を今でも思い出します。またライフサポートの専任看護師さんから丁寧な健康指導や病院の紹介も受け、現在もひとりで何とか生活できています。

この間親切なお世話を頂き、関係の皆さんに深く御礼申し上げます。(談)

M さん(50代 女性)

他県で美容師として長年働いていましたが、辛いことがあり生きていく自信を失い、死に場所を求めて山梨に来たとのこと。甲府駅でうずくまり、通行人からの差し入れで飢えをしのいでいたところ当法人の支援者が発見し、連絡を受けた当法人職員と共に甲府市役所で面談しました。

面談室で話を聞いたところ、今日までの自殺未遂の繰り返しの経過を涙ながらに語りました。その後、自殺を断念し新たに生きるという約束で、ライフ荘利用と就労支援を受けることになりました。

翌日ライフ荘を訪問すると、昨夜は熟睡でき本当に良かったと感謝の言葉があり、精神的にも回復したように見受けられました。下着の着替えや就職面接に着ていく上着のほか、ヘアカラー材等の買い物に同行し提供しました。就労は、辛い思い出のある美容師以外でという本人の強い要望があり、甲府市の就労支援員やハローワークとの連携で進めました。その結果寮付の農業法人への就職が決定しました。

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)
カトリック甲府教会にて(甲府市中央 2-7-10)
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



炊出しメニューの例
カレーライス、みそ汁、ちくわと大根の煮物、ゆで卵、野菜サラダ、漬物他

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。